

1.3 利水の沿革

大淀川は、古くから農業用水、発電用水として利用されてきています。明治 17 年に完成した本庄南用水路は、本庄川北側の水田を潤し、以降この地区の水田が干ばつで枯れることはなくなりました。大淀川は約 25,000ha におよぶかんがい区域に農業用水を供給しています。水利権量としては約 38.2m³/s(慣行水利を除く)を許可しています。水力発電としては、大正 15 年に建設された大淀川第 1 発電所をはじめとする 12 箇所の発電所により総最大出力約 240,000kw の電力を供給しています。

また、大臣管理区間では、水道用水として最大宮崎市に 2.133m³/s(185,000m³/日)、国富町に 0.083m³/s(6,000m³/日)を供給しています。なお、工業用水については、宮崎県知事管理区間において 0.011m³/s 取水しています。

表 1.3.1 大 淀 川 の 水 利 用 (許 可 水 利 権)

用水目的	件 数	最大取水量 (m ³ /s)	備 考
農 業 用 水	53	38.219	
水 道 用 水	3	2.216	
工 業 用 水	1	0.011	宮崎県知事管理区間
そ の 他	2	0.097	
発 電 用 水	12	461.620	最大水量
計(発電用水除く)	59	40.543	

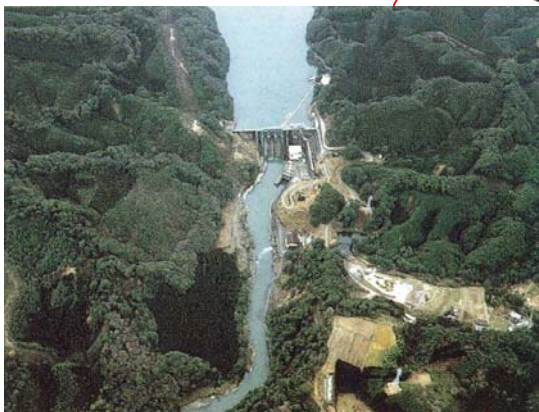
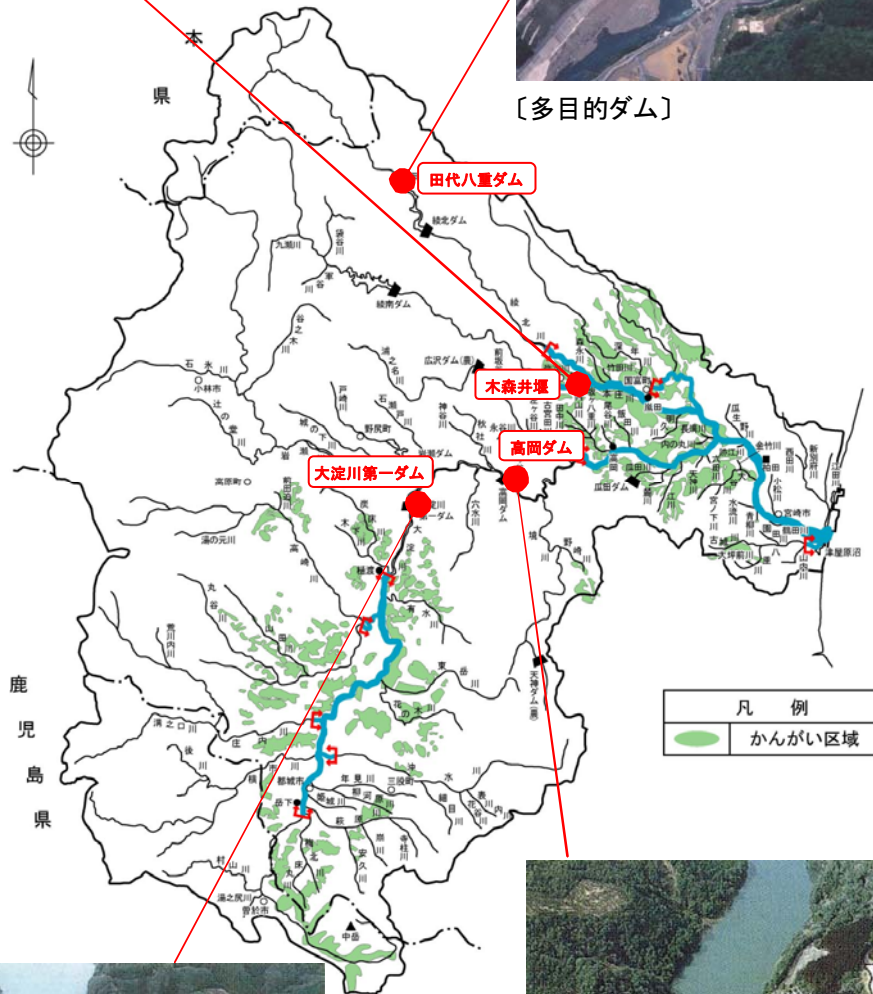
■木森井堰(平成9年完成)



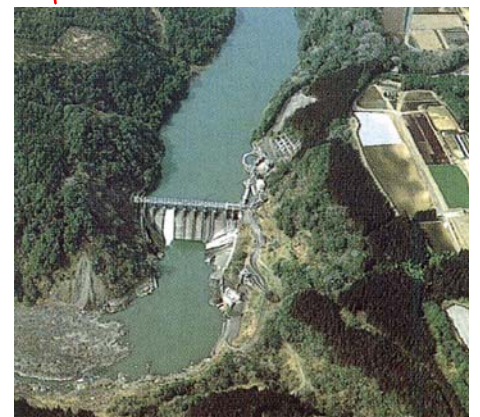
■田代八重ダム(平成12年完成)



[多目的ダム]



■大淀川第一ダム(昭和36年完成)



■高岡ダム(昭和7年完成)

図 1.3.1

大淀川 の 主 な 利 水 施 設